

ヤマキチョウを守ろう<クロツバラの植栽>

松崎まみ

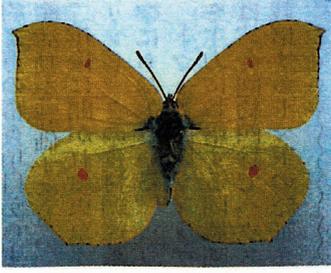
5月13日の日曜日、高根町小日和田で行われたクロツバラの植栽事業に参加した。今回の作業は、毎年アサギマダラのマーキングでお世話になっている鈴木俊文さんから、3月に行われた総会で提案があり、その呼びかけに応えたもの。

ヤマキチョウは岐阜県の絶滅危惧種に指定されていて、その幼虫は、クロツバラ（クロウメモドキ科）を食草としている。そのクロツバラの自生地が県内では少ないので、少しでも増やそうと、この植栽事業が企画された。

作業の前に小日和田の公民館でヤマキチョウと近種のスジボソヤマキチョウの標本を見ながら鈴木さんからレクチャーを受けた。この2種の違いは、上の翅（はね）の先が尖っているのがスジボソヤマキチョウで、ヤマキチョウは突出が弱く、赤っぽい縁取りがあるとか。飛んでいるのを見ただけでは区別はほぼ無理。2種の現れる割合はスジボソヤマキチョウ 100 に対してヤマキチョウ 1。それほど貴重なヤマキチョウなのだ。

岐阜市や遠くは京都市や長野県からも駆けつけた方がいて、総勢 20 名程で小雨の降る午前 10 時過ぎからカッパと長靴スタイルで植栽地へ移動し作業開始。トラックから大小 80 本程のクロツバラの苗を降ろす。低木やススキなどの根が絡み合う湿地の地面を、ツルハシやスコップを使い穴を掘る。丸石も多く手こずっているのを見かねた若いお兄さんが、ズッコズッコと力強く掘ってく





絶滅に瀕し、県内では高根町にしか生息していないヤマキチヨウ(左写真)を守るう…と市内の「里山の自然を考える会(鈴木俊文会長)が十三日、同町小日和田に食草のクロツバラの苗木を植えた。

この日は会員と、鈴木さんの呼び掛けで集まった「乗鞍岳と飛騨の自然を考える会」合わせて二十二人が参加。大雨の中、広さ約三千平方メートルの植栽地の草刈りや、同町で採取した種から栽培したクロツバラの苗木

を植えた(右下写真)。

絶滅寸前のヤマキチヨウを守る

高根町で市民団体が食草を植える

「互いに3m程は離して」、「道路の近くはアスファルトの照り返しで暑くなるから近づけないで」、「植えた苗にはピンクのテープでマークして」など指示を受けながら、なんとか午前中に作業は終わった。頭数が多いと作業がはかどると納得。

2mを超す大きな苗があり鈴木さんに尋ねると、自宅の庭で7～8年は育てたとのこと。自生地でクロツバラの種を採取し、ポットに蒔き地面に植え替えたら大きくなってしまったとか。本当は小さな苗の方が作業は楽だったけれど、補助金申請の審査がなかなか通らず7～8年目にやっと実現できたと言う。前日に造園業者の方も含め5人で掘り上げたが丸一日かかってしまったそうだ。植栽地も地主の方をお願いして許しを得たりと、事前の準備も大変



ヤマキチヨウを確認するため約四十年にわたって同町に通い続ける鈴木さんは昨年八月、初めてヤマキチヨウの姿をカメラに収めており「高根町で確認した報告は耳にしますが、絶滅していません。植栽によって個体

数が増えてくれるとうれしいです」と話している。



ヤマキチヨウ Wikipedia から転載

数が増えてくれるとうれしいです」と話している。

だったとか。

作業を終える頃には雨も本降りになり、昼食会場に借りている公民館にもどる。鈴木さん曰く「これだけ雨が降ってくれたので、明日明後日の水やりの心配がなくなりました」。雨もまた良し！

9月のアサギマダラマーキング会の帰りには小日和田に寄り道して、ヤマキチヨウを探す楽しみが増えた。

絶景でした！(2018.6.3 乗鞍岳雷鳥観察会)

ともこ、ゆうこ、しんこ





残雪の乗鞍は初めてでしたが、ハイマツの緑と白い雪と青い空のコントラストが目には鮮やかでした。

運よくライチョウを近くで見ることができて嬉しかったです。じっと岩の上に立ち続けるライチョウは崇高な感じがしました。

鳥も山も池も木も花も、ここでしか学べないことがたくさんありました。本当に行ってもよかったですと思いました。

ありがとうございました。

飛騨の峠【その5】

木下喜代男

猪之鼻峠（標高 1300m）—旧江戸街道にあった峠

とうに役目を終えてヤブに埋もれ、人々の記憶からも消えてしまった峠がいとおしくて、ヤブを漕ぎながらの峠探索は続く。

飛騨における近世の主要街道といえば、越中へ行く3本の「越中街道」、美濃方面への「益田街道」と「郡上街道」、そして乗鞍岳の南山麓を通過して中山道へ合流する「江戸街道」であった。

「江戸街道」は、金森藩統治時代に江戸への表玄関として整備され、天領になってからは幕府の役人や物資が頻りに往来し、そして「飛騨鯰（ぶり）」が信州へ運ばれた歴史の道だ。明治時代には信州へ糸引き行った大勢の女工さんたちが往復した。

高山陣屋からは、「美女峠」、「猪之鼻峠」、「寺阪峠」、そして国境の「野麦峠」を越えて信州に入る。木曾の藪原宿で中山道に合流し、江戸まで43次85里（337km）といわれ、今の国道と同格の主要街道であった。

この四つ峠のうち、「美女峠」と「野麦峠」の一部は行政によって「歴史の道」として保存され、「寺阪峠」は自動車道になっている。あと旧朝日村の黍生（きびゅう）谷集落から旧高根村の猪之鼻集落へ抜ける「猪之鼻峠道」は、昭和初期に飛騨川沿いに道がつけられてから歩く人がいなくなり、ほとんどヤブに埋もれていた。

この峠道を、6年ほど前に高山市役所朝日支所が旧朝日村区間だけ一度手入れをしたとのことで、当時携わった山スキー仲間のFさんからルートのお得情報を得ることができた。その時旧高根村側はヤブに覆われて道はまったくわからなかったとのことであった。

県道沿いに標識（写真1,2）がある旧朝日村黍生谷





写真3

から入ると、6年の間に笹が茂り倒木もあって荒れてはいたが、往時牛が通ったという広いしっかりした道が残っていた。(写真3,4)

平坦な尾根に出ると林道がつけられおり、一部旧道と重複。しばらく歩くと峠道は左の谷へ入る。笹を漕ぎながら谷が荒れている地点に出ると倒木が多く、道が消えていた。笹の中をだいぶ探したが見つからず、この日はここまでとして往路を戻った。



写真4

別の日作戦を変えて、旧朝日村宮ノ前から旧高根村猪之鼻集落へ通じる自動車道をたどり、「鳥屋峠」に駐車して地図に載っている林道を旧峠道まで歩く。荒れた林道は似たような地形が続き読図が難しかったが、文明の利器スマホのGPSのおかげで笹原に埋まった峠道を見つけることができた。(写真5)

笹を分けながら先日引き返した地点まで下ったが、流失しているところはわずかの部分であった。突然笹原を2頭のイノシシが横切りびっくり。こちらへ向かってこなかったのがよかったが、猪之鼻峠の名の由来がうなずけた。



写真5

再度登り返して林道を横切り旧村境の尾根にある峠(写真6)に出たが、地蔵様は見つからなかった。廃道になった他の峠のように、地元の人が集落へ下したのであろう。峠の尾根を越え、しばらく笹を漕ぎながら下ると明るい広葉樹林帯に出た。(写真7)

往時を偲びながら昔の道を歩いていると、牛にうず高く荷を積んだ牛方(どしま)や、旅人など昔の人に出会いそうで、まことに楽しいものだ。落ち葉を踏みながらジグザグのしっかりした道をどんどん下る。途中荒れた林道を横切り、下で自動車道を横断して藪を漕ぎながら少し下ると、標高970mの猪之鼻集落へ出た。

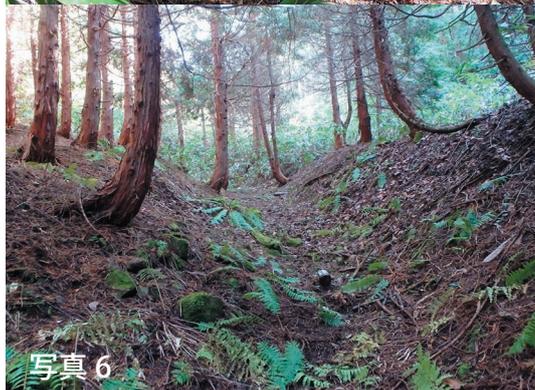


写真6

昔ながらのたたずまいを残した集落からは、雪を冠った乗鞍岳が間近に望めた。(写真8)猪之鼻集落は、飛騨川沿いの国道からさらに山へ入ったところにある隠れ里ともいべき集落だ。ちょうど畑におられたNさん(82歳)と話しをすることができた。かつて15軒ほどあったが、現在住んでおられるのは2軒だけだそうだ。集落そばの旧街道沿いには、峠から下ろしたという地蔵尊(写真9)があり、中之宿へ下る旧道には馬頭観音があった。



写真7

車道約4kmを歩いて車を停めた「鳥屋峠」まで戻る。この峠(『斐太後風土記』には鳥屋尾嶺とある)は、主要街道ではないが昔から美濃から信濃へ通じる間道として利用され、峠にカスミ網で渡り鳥をとらえる場所=鳥

屋があったが、その後自動車になった。前出のNさんは、子供の頃歩いて峠へ行き、網にかかっているたくさんのアトリやツメという鳥を見たという話をしてくれた。この頃にはもう猪之鼻峠は使われていなかったことも。

車で秋神へ下り黍生谷の峠道入口へ戻ると、県道端に広い敷地跡（写真10）があった。ここは、牛馬の調達、荷役の輸送、旅人のある休息、食事、宿泊の便宜などをはかる「人馬人足御用問屋（といや）」の跡で、清水家が代々務め、屋号は「黍生谷村太郎作」と言った。その先の甲（かぶと）宿では中谷家が問屋を務めていた。

2～3年に前鳥屋峠を調べに来た時、この敷地跡で近所の老婆が一人で草を引いていた。その時88歳だといわれた老婆は、「子供の頃は偉い人が泊まれるのでこの屋敷には近づくなといわれていた」「若い頃猪之鼻を越えて高根の上ヶ洞まで祭りを見に行っていたことがある」「戦時中は街道の上部の広い尾根に皆で畑を作った」などと、なつかしそうに話してくれたのを思い出した。

その時間屋跡の横にあった老婆の家は無くなっていた。

（現地踏査・平成29年11月10日、11月13日）



写真8



写真9



写真10



今後の予定

☆水生昆虫の調査

7月22日(日)

集合：市民プール駐車場(赤保木町) 午前9時(小雨決行、増水時中止)

服装：濡れても良い服装&足もと(午前中に終了予定です)

今回で3回目の調査です。トビケラ、カワゲラ、カゲロウなど様々な昆虫の幼虫を採取して種類や数を調べ、川の状態を知ることができます。川上川と宮川の2地点で調査の予定です。

☆アサギマダラ マーキング会

9月2日(日)(荒天の場合、9月9日に延期)

集合：午前9時、道の駅・ひだ朝日村駐車場

※集合後、乗り合わせて移動します、15時半頃解散予定です。

持ち物：捕虫網(貸出しもあります)、油性フェルトペン(黒・細書き)、

弁当・飲物、メモ用紙、帽子、雨具、日除け対策グッズ、その他

指導：鈴木俊文さん(岐阜県昆虫分布研究会)

多くの個体が秋になると南西諸島や台湾まで南下することで知られる蝶、アサギマダラ。今年もマーキングの会を開催します。

上記2件の問合せ：松崎(090-4214-5208、ponykun0428@hidatakayama.ne.jp)

☆ムササビ観察会

7月22日(日)

集合：18時30分 日枝神社社務所前(※雨天中止)

持ち物：懐中電灯、防虫スプレーがあると便利

主催：日本野鳥の会岐阜飛騨ブロック

問合せ：直井(0577-72-2861)

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000円 家族 3,000円 団体 5,000円
あなたの知人、友人に入会をおすすめください
・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 73 第号(深緑号) 2018 年 7 月 10 日 発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL: 0577-32-7206・FAX: 0577-32-7207

下記 URL のページからくらがね通信のバックナンバーが閲覧できます。

★ <http://iidalaw.net/norikura.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者: 松崎 茂

E-mail: ponykun0428@hidatakayama.ne.jp TEL: 0577-34-4703

表紙写真提供: 小池 潜

印刷: 山都印刷